

いわき民報

発行所
いわき民報社
平市田町四八番地三三八一
電話 八二八
編集人 千野克巳
印刷人 千野克巳
(但月曜を除く)
定価一月十五円 一部五十銭

参加申込み既に三十四店

果然人氣煽る陳列窓裝飾競技

秋の平野商店街を飾る本社主催「ショールウィンド」陳列窓裝飾競技は、果然各方面の人氣を呼び大會開催を待たれて、主要店舗では陳列窓と同時に本大會開催の趣意を啓蒙し、物々しい意気込みで四日まで参加申込み店三十四軒に達し、五日の締切までには四十軒を突破する模様で、今から美的裝飾に富んで、趣味的裝飾を行はんと構想を練っているのが大會にふさわしい、優秀裝飾が展開されるものと期待されている。参加店の如し(順不同)

△一丁目警察署、飯田カメラ店、平野商店街、常盤時計店、大倉商店、森下商店、坂本紙店、△二丁目マツヤ糸店、新屋敷商店、山家洋品店、根本時計店、日東商店、玉屋眼鏡店、エント洋品店、△三丁目大倉屋、岡田洋行、天地堂、茂木カメラ店、△四丁目マルトモ書店、△五丁目金光堂時計店、菊水時計店、△田町木下商店、新築陳列店、藤倉商店、誠光堂、吉田屋洋品店、メイ化粧店、△田町タカラ商店、深谷靴店、いづみや、平サーブス商店、きくち洋品店、仙居商店、吉田屋洋品店

小名海運局支局昇格

一日付て正式に決定さる

小名海運局では東北海運局出張部を設けたが、その結果は左の所の支局昇格の運動中との通りで大矢隆太郎君がA組で一日付て正式に支局に昇格された。なお同港には東北地方への航路の要衝として石曲補給所も設置されることになつており、海運としての名實ともよく支局に向い進んで来たわけで支局昇格はたんに小名港のみでなく警備七溪の福音として喜ばれている。

平地食料協成

協成組合

理事長には 蓮沼龍輔氏を平市を中心に石城、双葉、相馬三郡下の料飲店業者は互相扶助と業界の健全な発展を旨として、今般平地食料協成組合(同組)を結成することとし、飯水町町中(中)のところに、一、二日付て協成の協成に決した。今般は連沼龍輔理事長のもとに一致結束奮闘の苦境を組合の力に依り乗り越えて營業の再開促進に一途邁進することとなつた。

大矢君優勝

十一月將棋例會

平野棋友會の十一月例會は、二、三日五丁目将棋で開催、参加者全部を抽籤で四人を一組として、リーグ戦を行い、各組の優勝者を以てトーナメント戦をなし、A組はA組戦の先鋒者全員のトーナメント

早場米供出 好成績

サマイモは水害のために不良の早場米供出の期間中の早場米供出は約三千三百五十俵(上野村を除く)に對し、去年より三割七分強も強くなつて、上野村を除く、昨年と較べて、完遂には相違困難があつたものとみられて、なおお総計は八萬七千六百七十七俵である。(カネ内は大豆)

米の供出割當決定

大豆も同時に割當なる

反収暴落等の決定等から幾度か小委員會を開いて検討中だつた、本年産米の供出割當は、漸く決つた。今年にはサマイモの代替供出を認め、昨年より三割七分強も強くなつて、上野村を除く、昨年と較べて、完遂には相違困難があつたものとみられて、なおお総計は八萬七千六百七十七俵である。(カネ内は大豆)

(一)川部	三八〇
(二)田代	一〇〇〇
(三)飯沼	一八五〇
(四)高井	二四〇〇
(五)江名	二九〇〇
(六)小名	三六〇〇
(七)小名	四四〇〇
(八)湯本	六七〇〇
(九)赤井	一〇三〇
(一〇)赤井	一〇三〇
(一一)赤井	一〇三〇
(一二)赤井	一〇三〇
(一三)赤井	一〇三〇
(一四)赤井	一〇三〇
(一五)赤井	一〇三〇
(一六)赤井	一〇三〇
(一七)赤井	一〇三〇
(一八)赤井	一〇三〇
(一九)赤井	一〇三〇
(二〇)赤井	一〇三〇
(二一)赤井	一〇三〇
(二二)赤井	一〇三〇
(二三)赤井	一〇三〇
(二四)赤井	一〇三〇
(二五)赤井	一〇三〇
(二六)赤井	一〇三〇
(二七)赤井	一〇三〇
(二八)赤井	一〇三〇
(二九)赤井	一〇三〇
(三〇)赤井	一〇三〇

小名起重機問題解決

西丸猛氏の既得權は飽足尊重

小名海運局では海運局起重機一等スナック用コンクリートの設置問題について三十日午後、特設研究會で愛好の同志と共に三時伊藤土木部長の石壁に、充分説明しようとする方針より直ちに委員を召集、協議決定した。カメラと材料は、出稿、三十一日伊藤部長と會見、西丸氏の未だ既得權を行使し、クレーンの使用は海運局に譲渡、荷役の能力を増進せしむる事として新設の即立を条件としてこれが創設後は、現海運局の接收を進行、その際は現社社長西丸猛氏の既得權を十分尊重承認する方針の許可に使用認可をなすことになり、漸く解決したかゝることになり、新設の起重機問題もこれで漸く安堵を付けることになった。

電話讓受度

佐藤鐵工販賣部

平市三丁目マルトモビル 電話(三三三)番 照會(一)番(電話三三三)番

平地食料協成組合發足

- | | |
|------|----------|
| 理事長 | 蓮沼龍輔 |
| 専務理事 | 佐藤子之吉 |
| 常務理事 | 青天目源一郎 |
| 理事 | 大谷傳長 |
| | 井戸川安信 |
| | 小川島一信 |
| | 森川泰一郎 |
| | 福山泰一 |
| | 小鐵治 |
| | 佐藤永助 |
| | 佐藤新五郎 |
| | 柿沼興全 |
| | 佐藤信雄 |
| | 鈴木信雄 |
| | 高橋喜一 |
| 監 | (内郷町) |
| | (江名町) |
| 事務所 | 平市南町五十番地 |
| | 電話六七九番 |

江田川溪谷に折紙

平山岳會が

八六二〇〇(合計八萬七百石大豆一千五百石) 江田川溪谷を、探勝のため平山岳會員十五名及び地元一、二名、合計二十名は去る、二日、打連れて紅葉する同地を踏破したが約四キロに亘る勝地は奇岩怪石に紅葉を配し、其の間大小二十餘の瀧が人目を奪い、八人賞の瀧が人目を奪い、八人賞

平刑務所長異動

平刑務所長山崎俊雄氏は今般、仙台刑務所長に異動、後任は長崎刑務所長徳澤大田卯八氏と決定

いわき民報

